

(プレスリリース)

2020年1月21日

『関西の2019年の人口移動』 ～ 実質的に46年ぶりの好調な動き ～

1. 2019年の関西の人口移動

総務省「住民基本台帳人口移動報告」によると、2019年の関西の人口移動は、1～11月の合計で7,867人の転出超過となっている(図表1)。これにより、通年では8千人強の転出超となる見込みであり、18年に比べると約4千人の改善となる。依然として転出超過の状況に変わりはないものの、東日本大震災後の数年を除けば、1973年以来*の良好な水準となりそうである。

近年は、関西をめぐる人口移動は改善が続いているが、特に19年の動きは目覚ましい。東海との比較でいえば、18年に逆転した後、19年の大幅な改善で一気に差が広がっている。

2. 人口移動の改善の背景

(1) 男女別の動き

近年の関西の改善傾向については、どちらかといえば女性が中心であった。ちょうどインバウンド市場の拡大とタイミングが一致していることから、小売や宿泊、サービス業での雇用拡大に伴う、広域からの女性の流入が原動力とみられる。図表2のとおり、19年もその動きが継続している。

一方、19年は男性の動きも大きく改善している。男性を年齢層別にみると、19年に改善が目立つのは25～29歳、それに30～34歳が続く。この年齢層の動きは、主に企業の社内異動によるものとみられる。この点は、就職にあわせた流入が多い女性とは大きく異なる。

ちょうど18年の秋に大阪万博の開催が決定し、統合型リゾート(IR)の誘致も本格化する中、企業の間で関西への人員配置を進める動きが出てきた結果と考えられよう。

(2) 地域別の移動状況

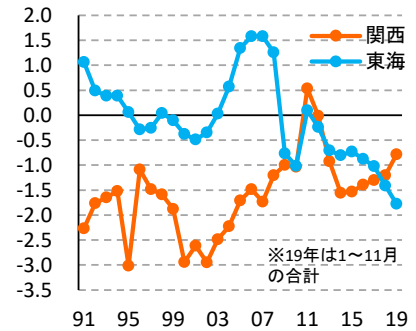
これについて、男性の地域別の移動状況を見ると、図表3のとおり、中国、四国、九州といった西日本からの流入が大きく増えている様子が分かる。東海も流出超から流入超に転じた。南関東への流出は依然として続いているものの、男性の移動は19年を境に大きくトレンドが変化している。西日本からの流入増は、すでに女性の間では顕著となっているが、男性にもその動きが始まったことになる。

※今回の人口移動の分析は日本人を対象としているが、地域別移動状況の19年データに限り、外国人を含んだものとなっている。18年以前との連続性は欠くが、19年の大幅な改善は外国人も同様であり、根本的なミスリードの懸念は薄いと判断される。

3. 大阪府の人口移動

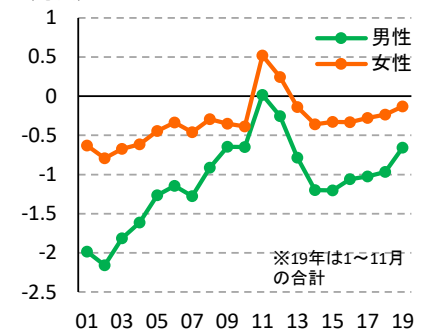
一方、大阪府の人口移動の状況を見ると、19年は1～11月の実績で9,831人の転入超過であり、通年で

図表1 人口の転入超過数の推移 (万人)



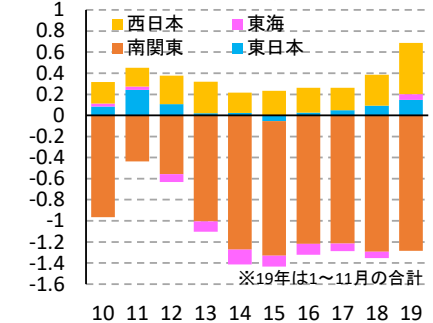
(出所)総務省「住民基本台帳人口移動報告」
※転入超過数:転出数と転入数との差

図表2 関西の転入超過数の推移 (万人)



(出所)総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図表3 関西の転入超過数の推移 (地域別・男性) (万人)



(出所)総務省「住民基本台帳人口移動報告」
※2019年のみ外国人を含む移動

は約1万人の転入超となる見込みである(図表4)。これは18年に比べると約5千人の改善であり、水準としても1971年以来の好調な数字となりそうである。

改善の背景はすでに述べたとおりであるが、注目されるのは地域別の移動状況である。

一般的に、大阪府で人口移動が改善した場合、京都や兵庫、奈良などの、いわゆる関西圏からの流入増が連想されるが、19年に限ってはそれが当てはまらない。つまり、近隣からの流入に頼らない、広域からの移動に支えられていることを意味する。これは関西にとって非常に明るいニュースといえよう。

その様子は図表5にも表れており、大阪府の人口移動で改善が目立つのは、主に西日本や東海となっている。もちろん関西圏からの流入も一定部分を占めているが、広域からの移動が増えている様子が分かる。

4. 今後の展望

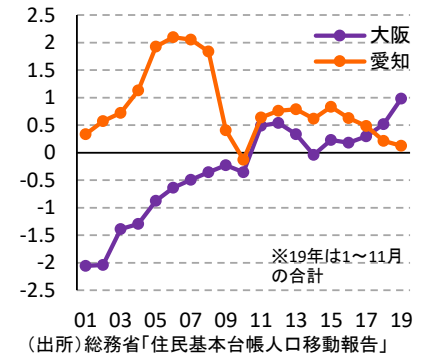
すでに述べたとおり、19年の改善はインバウンド要因に万博、IR要因が加わったことが背景とみられる。それに伴い、当面はこの改善ペースが続いてもおかしくない。もちろんIRの誘致については不透明であるものの、万博の準備はこれから本格化する。

ちょうど東京五輪関連の動きも一巡し、今後は建設人材の関東から関西への移動が増えることになろう。その結果、19年は西日本からの男性の流入が増えたが、20年以降は関東からの流入が加わることが予想される。

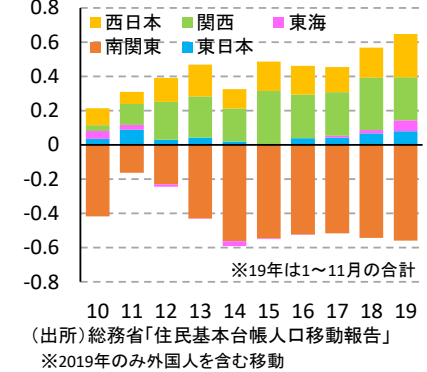
21年以降については、やはりIR誘致の行方次第となろう。仮に誘致が決定すれば、人口移動の面で、万博以上のインパクトが予想される。観光地としての世界的な注目度も増すことから、国内外からの企業進出の増加が期待される。結果的に人口の流入も加速することになろう。

近年のインバウンド市場の拡大による女性の流入に、万博、IR要因による男性の流入が加われば、関西の人口移動が転入超過に転じる日も近い。早ければ、21年中にも実現するのではないかと。

図表4 (万人) 人口の転入超過数の推移



図表5 大阪の転入超過数の推移 (地域別)



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp

※プレスリリース時は1972年以来と表記していたが、過去の推移を見直し「1973年以来」に修正

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。